

介護・医療連携推進会議記録

開催日時	令和5年 3月23日(木) 18時30分 ~ 19時30分	場所	株式会社グッドライフケア大阪 本社2階研修室
参加者	介護施設 職員2名、北区大淀地域包括支援センター 職員3名、北区地域包括支援センター 職員1名、診療所 医師1名、クリニック 職員1名		
<p>○利用者推移の数値的データの紹介と考察</p> <p>○事例紹介</p> <p>○意見交換・質疑応答</p>			
<p>活動内容等の評価</p> <p>感染症対策のため『Zoom』を用いて本会場と併せて会議を実施</p> <p>Zoom参加者 外部 8名 職員 21名 (最大接続時)</p> <p>本会場参加者 外部 0名 職員 5名 参加者合計34名</p> <p>・定期巡回 4区合計介護度別グラフ (令和4年6月~12月 区別 利用者推移)、4区別利用者推移グラフ (令和4年6月~12月)、定期巡回のサービス内容 (年間)</p> <p>・事例タイトル 『「何しに来たんや」が「待ってたで」に変わるまで ~定期巡回が築いた、新しい習慣~』</p> <p>・意見交換・質疑応答</p>			
<p>内容</p> <p>○利用者推移の数値的データの紹介と考察</p> <p>⇒6月~9月に掛けて増加し9月~12月に掛けて現象しているのが、契約終了ではなく状態が改善し、訪問介護に変更になったため</p> <p>○事例紹介 事例タイトル 『「何しに来たんや」が「待ってたで」に変わるまで ~定期巡回が築いた、新しい習慣~』</p> <p>⇒サービスまでの経緯...認知症をわずらっており、薬の自己管理が出来ない。そのため毎朝、病院へ通院し、看護師が服薬を手伝っている状況であった。</p> <p>病院側も対応せざる負えない状況だが、本人様、病院側、双方の負担が増えてきており、包括内で対策を思案していたところ、定期巡回であれば対応可能なのではないかと考えてくださる。</p> <p>⇒定期巡回サービス実施...初回訪問では応答なく、同日の再訪問にて「何しに来たんや」、「責任がとれんのか？」等の発言、怒りが収まる様子なく撤収。2日目も2度入室拒否。3度目にて渋々了承下さり、薬を服用されるが、同日病院に通院された際「薬は飲んでいない」等の発言をされる。本人様の認知症の度合いが判明し、同じ説明の仕方でも、気分によって拒否を示される。その為、不穏になる前に撤収し、再訪問する流れが適切である。3日目、先生の依頼で来たと伝えると受け入れ良好、「まあ、入りや」と話され入室。穏やかに会話して下さり、薬を服用頂く。「こうして毎日来てくれるんやな」と訪問への理解を示して下さい。4日目も受け入れは良好だが、「薬は食後に飲むから置いて」と服用拒否。食後でなくても大丈夫と促すが、強張った表情になる。再訪問するが同様の理由で拒否。病院と相談し、薬をテーブルに置いて退出。5日目も受け入れは良好。薬をお出しするも前日と同様の反応。<一口でも食べて下されば薬を飲んで問題ない>と説明。「そうか」と了承頂き、その後難なく薬を服用。強いこだわりも工夫により対策できる。</p> <p>それ以降は拒否をされる事はなく安定したサービスの提供が出来るようになったが、「昨日は誰も来なかった」「昨日は薬を飲んでいない」と発言される日があり、その日以降、同様の発言が毎回出るようになった。対策としてカレンダーを持参し、服用後の空シートを日付の箇所に毎回貼り付けることを実施。一緒にカレンダーをご確認いただく事で、「ほんまやな。安心したわ」と納得して下さいになる。介護士訪問が日課の一つとして考えて下さるようになる。介護士の訪問に対して「薬やな、待ってたで！」と返答下さるようになる。関係性が生まれ、昔の話やご自身の事を話されるようになった。関わりが増えたことにより今後の課題も見えてきた。</p> <p>⇒課題...出来なくなっている事が少しずつ増えている。その事柄に対して、如何にして自尊心を傷つける事なく、支援していくかが今後の課題。</p> <p>○意見交換・質疑応答</p> <p>・本人様が拒否傾向がある時、サービス継続のためどのようにして了承得られるよう工夫したか。→ご本人様の体調や気分に合わせて対応をし、包括等にもケアマネから情報を共有しサービスを継続している。</p>			
事業所名	グッドライフケア24大阪	記録作成者	令和5年 3月23日 松下 安理